



園

江川 永里子

三月！

別れと出逢いの季節がやって来ます。ゆめ組さんと過ごす時間は、あと 20 日となりました。

黄色！帽子さんのクラスは、開園 9 年目を終えようとしている東野田ちどり保育園に、思い出深いパワーを頂きました。

新しく年長組を迎えるピンク！帽子さん。

沢山教えて頂き、先輩ゆめ組さんとの時間を大切にしたいと思います。

それぞれの新しい春に向かい、心弾ませてのぞみたいと思います。

来年度 2018 年度は、開園 10 年目を迎えさせて頂く節目の年になります。

職員一同、**和、輪、笑**を大切に取り組んでまいります。

どうぞ、宜しくお願いいたします。



～アドラーより～

子どもの話を聴く

勇気づけの第一歩は、子どもの話に耳を傾け、子どもの考えや感情や意思を理解しようとする事です。

1. 話を最後まで聴く

あなたは、子どもがじゅうぶん話さないうちに、あなたの考えをたくさん言って、子どもをうんざりさせていませんか？まず、子どもの話を聴くことです。途中で口を挟んだり、あなたの意見を言ったりしないで、子どもが話し終わるまで黙って聴きましょう。

2. 子どもの方を向いて聴く

子どもが話しはじめたら、できるだけ子どもの方を見てあげましょう。子どもの方を向かないで関心なさそうに聞くのでは、子どもは話す気を失ってしまいます。炊事中に後ろから話しかけてきたというような場合でも、ふりかえって子どもと向かい合う方がいいかもしれません。

見るといっても、別に正面から目をのぞき込んで見つめることはありません。子どもの話に関心をもっていることが伝わればいいのです。

3. あいづちをうつ

話を聴くとき、だまって聞いているのではなくて、あいづちをうつてあげましょう。ただじっと聴かないで、話の切れ目に「うんうん」「なるほど」「それで？」というようなあいづちを挟むと、子どもは「聴いてもらえている」と感じて、もっと話す気になると思います。「面白かったの」とか「よかったね」とかいうように、あなたの感想を言うのも、あいづちの一種だと考えていいでしょう。

4. 子どもが黙っても、せかさない

子どもが話の途中で黙ってしまったときは、考えをまとめようとしているのかもしれませんが、しばらく待つてあげます。目安としては 20 秒は待つてあげるとよいでしょう。それでも子どもが話を続けないうときは、「それで？」などと水を向けるか、あるいは子どもが最後に話をしたことをくり返します。たとえば、「直子ちゃんがあなたにいじわるをしたのね」というように。